

2019年4月24日
山口宇部パワー株式会社

西沖の山発電所（仮称）新設計画 計画変更の検討および環境影響評価手続の休止について

山口宇部パワー株式会社（本社：山口県宇部市、代表取締役社長：森本成、以下「当社」）は、山口県宇部市西沖の山（宇部興産株式会社（代表取締役社長：泉原雅人、以下「宇部興産」）所有地）において、これまで進めてきた西沖の山発電所（仮称）新設計画（以下「本計画」）に関し、今後、計画変更を検討し、環境影響評価法に基づく環境影響評価手続を休止することといたしました。

当社は、2015年3月の会社設立以来、本計画に関し、発電事業の検討および準備を進めるとともに、環境影響評価法に基づき、環境影響評価手続を実施してまいりました。2018年9月には、環境影響評価準備書を国に届出、関係地方自治体に送付し、審査を受けてまいりました。

このたび、当社への出資会社である大阪瓦斯株式会社（代表取締役社長：本荘武宏、以下「大阪ガス」）が、本計画からの撤退を決定したことを受けて、当社は、今後、本計画の変更を検討することとし、併せて、現行の環境影響評価準備書に関しては、国に、取下げを願い出ることとしました。

当社への出資会社である電源開発株式会社（代表取締役社長 社長執行役員：渡部肇史、以下「Jパワー」）および宇部興産は、最新鋭・最高効率の石炭火力発電所建設の検討を継続することを合意しており、今後、当社は、60万kW級超々臨界圧発電設備の単機開発へのスケールダウン、および酸素吹石炭ガス化複合発電（※）による商用機開発への計画変更を検討し、最適な発電所計画を策定することとしております。

当社は、これまで関係各位のご理解、ご支援を得て本計画を推進して参りました。関係各位に対し、改めて感謝の意を表しますとともに、今後の計画変更に関しましても、ご理解とご支援を賜りますよう、お願いいたします。

当社は、今後も、最新鋭・最高効率の石炭火力発電所の開発により、西日本広域での電力の安定供給、および老朽火力の代替により、国の低炭素化に貢献するという使命を果たし、環境と調和した事業展開を続けてまいります。

（※）酸素吹石炭ガス化複合発電（IGCC）：石炭粒子を酸素でガス化し、生成した水素と一酸化炭素を主成分とする可燃性ガスを燃料としてガスタービンで発電すると同時に、排熱を利用して蒸気タービンで発電する複合発電方式（Integrated Coal Gasification Combined Cycle）。酸素吹は、CO₂分離・回収において、効率が優れる。現在普及している超々臨界圧微粉炭火力（USC）と比べて、CO₂の排出量を削減できる。Jパワーは、中国電力㈱と共同で、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成事業として実施している大崎クールジェンプロジェクトにおいて、酸素吹IGCCの大型設備実証試験を約2年間にわたり実施し、基本性能や制御性、運用性など全ての試験項目で目標を達成し、2019年2月に無事終了している。

(本計画の概要)

発電端出力： 120 万 kW (60 万 kW×2 基)
発電方式： 超々臨界圧石炭火力発電 (USC)
所在地： 山口県宇部市西沖の山地区
運転開始： 1 号機 2026 年 4 月、2 号機 2026 年 10 月

(当社の概要)

会社名： 山口宇部パワー株式会社
本社所在地： 山口県宇部市
設立日： 2015 年 3 月
代表者： 代表取締役社長 森本成 (J パワー開発計画部長)
出資比率： J パワー 45%、大阪ガス 45%、宇部興産 10%
事業内容： 電気等供給事業

以 上